

ま え が き

高等専門学校（以下、高専）は、産業界からの強い要望に応え、昭和36年6月に学校教育法の一部改正によって中学卒業段階から5年一貫教育により、6・3・3・4制とは異なる教育体系で、優れた実践的技術者を養成するための高等教育機関として創設されました。明石高専は昭和37年4月に第一期12校の一つとして開校し、平成8年に2年制の専攻科が設置され、平成24年度には高専制度創設50周年を迎えることとなります。本校は、これまで6,300名を超える有為な人材を世に送り出し、各界から高い評価を受けています。

近年、我が国の社会構造は大きく変化し、科学技術の高度化、学際化、国際化が急速に進んでおり、また少子高齢化など社会環境も変わりつつあります。こうした社会的背景のもと、平成16年に国立高専55校が一つに纏まって法人化され、独立行政法人・国立高等専門学校機構が発足し、その後、4地区の高度化再編で国立高専は51校となりました。平成20年に中央教育審議会の大学分科会・高専特別委員会から「高等専門学校の教育の充実について～ものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指して～」という答申がいただきました。本答申においては、高専教育の個性化とさらなる充実、高度化を図るため高専間や産業界等との連携を積極的に進めることなどが求められています。

本校では、このような産業構造や社会環境の変化、教育改革に伴う高専の将来にかかわる問題をいち早く認識して、教育研究活動の現状と課題について不断に検討をおこない、改善に努めてきました。前回の自己点検・評価報告書は、平成18年3月に作成しており5年が経過しました。この間に実施しました主な取り組みは、次の通りとなっています。キャンパスの整備としては老朽化の激しい体育館、寮や学生食堂の改修と周辺環境の改善、法人化後の第一期中期計画・目標の推進と第二期計画の策定、専攻科「共生システム工学」プログラムの日本技術者教育認定機構（JABEE）への再審査と認定、文部科学省の学生支援GPを始めとする各種外部資金による教育プログラム事業の諸活動となっています。

平成22年度版の「明石工業高等専門学校の現状と課題」は、将来計画・自己点検等委員会（自己点検・評価報告書作成ワーキンググループ）のもとで、現時点における本科・専攻科の教育と研究、管理・運営、地域貢献、共同研究、国際化などに関する点検と改善、さらには今後取り組むべき課題などをまとめたものです。関係各位におかれましては、本報告書にお目通しを戴き、忌憚のないご意見を戴ければ幸いに存じます。

平成23年3月

明石工業高等専門学校長

京 兼 純